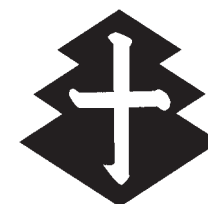




SU GA TA

No.15

特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場



特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場

ごあいさつ

認定法人の再申請を行いましたところ、無事に継続承認されました。5年間の活動内容に対して公益性があると評価をされたいと思います。

私たちは常に、皆様にご納得いただける内容の活動をしていきたいと思っております。小笠原教場の改修工事も終わり、それにより稽古や講演会、体験会がより良い環境で行えるようになりました。また、道具の管理や修繕も行いやすくなりましたので、当法人の主たる目的である、小笠原流の維持・継承への貢献をより一層果たせていけるものと思っております。

私事ですが、4月より小笠原教場に隣接した場所へ居住することとなり、より活動を行いやすい環境になります。本号の『理事長のつぶやき』で記載をいたしますが、2022年12月にインドで流鏑馬を執行いたしました。このきっかけとなったのが小笠原教場での体験会でした。今後も多くの方々に小笠原流を知っていただき、小笠原流の維持・継承へ貢献していきたく思っております。

今期も引き続き、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場

理事長

小笠原清基



平成24年8月 奈良県 東大寺にて大的式

ていただきました。現在、伊藤先生と同じ年代に達しましたが、少しでもこの教えの真似事が出来ればと思っています。

近畿菱友会の研修会での忘れられない思い出です。清信先生に直接ご指導いただける研修会ですが、全員が一手見ていただいた後に個別に講評していただきました。その折、菊川秦作さんの射については「良い射でした。その射を忘れないように」というような講評でした。休憩になり控にいと菊川さんが満面の笑みを浮かべ「うれしい。先生に褒めてもらた。こんなうれしいことないで。京都で勝ったよりもうれしい」と大喜びでした。全国大会錬士の部3連覇された猛者にしても、優勝より先生に褒めていただいたことが重大であつたのです。それほど当流に入れ込んでおられたのでしょうか。私も見習わなければと肝に銘じた出来事でした。

若い頃に清信先生から直接に教えていただいたのに的立があります。どこの場所か忘れましたが、奉仕者が少ない行事でした。先生が「皆さん方の的立はまだまだです。今日は私が的立をするので見ておくように」と仰つて的立役をされました。私は矢拾でしたので、間近で先生の的立を拝見しました。（先生への目付は足元との教えに従い私の目付は清信先生のお足元でしたので全体の把握ができなかったことは残念ですが）先生の気合は肌にお姿は儼に、お声は耳に今も残っています。これが私の的立役の原点です。的立役を勤めるときは常にこの時を思い浮かべて勤めています。

和泉道場での稽古

名古屋に就職して稽古をどうしようかと迷っていた時に、たまたま転勤で名古屋勤務になっていた中笠さんにお会いしました。中笠さんから富田剛一氏の和泉道場での稽古を勧められ、道場に伺い富田さんのお許しを得て稽古が始まりました。中笠さんと共に週2回、木の夜二時間ほど稽古しそのあとは毎回のごとく喫茶店で1時間ほど話をしました。和泉道場は幼稚園の教室が射場でしたので、まず机椅子を片付け射場を作り安土に的を1つ掛けます。（1つしかかからない）そこに、山本徳良さん、富田さん、東海クラブの面々が集まり稽古するので自然と見取り稽古が多くなりました。当流以外の射もあり、他の方の射を見るのは大いに参考になりました。休憩では徳良さんから、猿楽町での稽古状況や、多くの弓の雑学を教わりました。滅多に稽古しない（年に2、3回？）のに安藤さんは不思議にも外さない。「スーと引いてきてサッと離せば矢はまっすぐ飛ぶものだ。余計なことをするから当たらないんだ」不思議な人です。今も東海クラブの方々は大切な仲間です。



私の履歴書

三重菱友会 九里孝義

半世紀の弓道修行

弓の稽古を始めて半世紀が過ぎました。この機会に過去を振り返ってみたいと思います。当流では先生とお呼びするのはご宗家様だけです。私にとつては先生とお呼びしたくなる方がおられます。このため、少し呼称が違うことをお許しください。弓道を始めた時の師は本多流でした。師からは「弓の引き方は教えるが、奈良は小笠原流なので、作法は県連で教えてもらったほうが良い」と言われて県連での稽古を薦められました。小笠原流が何かとも知らずに県連に向き当流稽古が始まりました。

小笠原流との出会い

清忠先生を初めて拝見したのは昭和42年重藤弓伊藤登先生の還暦お祝いの射会でした。蹲踞での墓目だったと思います。初めて見た射礼に目を奪われ、その華麗さに憧れをもちました。門人でもないのに、翌日の近畿菱友会の研修会に参加して初めて清信先生にお目にかかり射術のご指導を賜りました。今思えば汗顔の至りですが知らないことは強いものです。

昭和43年だったと思います。伊藤先生に入門をお願いしました。しかしなかなか入門のお許しがいただけません。小笠原流への入門は厳しい審査があるのだと思っていました。45年になって伊藤先生に確



令和元年9月 ポーランド、ワルシャワでの研修会

認したところ「まだだったのか」の一言。忘れられていたのです。45年春に入門許しをいただきました。伊藤先生はお若い頃に晴道先生の教えを受けられた方で、バイタリテイ溢れる先生でした。自ら、「射手よりマネージャに向いている」と仰られ、勇み足もありましたが近畿菱友会は伊藤先生で持っていました。時には厳しいお言葉を頂戴しましたが、組織の統率、マネーシングの大事さ、謙虚さ、出しゃばらない、皆さん方に奉仕すること等々を背中教

礼法の稽古

礼法の稽古は増田美和栄先生のお家が支教場でしたので基本体を中心に稽古を見ていただきました。また、年2回坂寄先生が奈良に來られて稽古をつけてくださいました。坂寄先生の稽古は主に土曜日が基本体、日曜日は応用でしたが、春の稽古では5月の同門会で披露するいろいろな儀式の稽古がありました。帯の祝い、手習い始め、結婚式（簡略版）等々です。土曜日の稽古で筋肉痛になり、日曜日は傷みをこらえての稽古で楽しい2日間でした。坂寄先生からは「しっかり稽古しなさいよ。稽古帰りの階段は危ないから後ろ向きに降りなさい」とご注意をいただきましたし、帰りの電車の中で昔の稽古風景をたくさん伺ったのも懐かしい思い出です。

そうこうしているうちに仕事が忙しくなり10数年稽古中断に至りました。



稽古再開

昭和63年増田先生への年賀状に、水曜日が残業禁止になったので稽古が再開できるかもと書いたところ、2月末にはがきが届き、「ここに電話しなさい。話はできているので、稽古を始めなさい」との由。4月に中川秀孝氏の私設道場鳴鳩榭で稽古を再開できました。増田先生には感謝もしきれません。稽古再開後も時折ご指導いただきました。（三重の桑名さんから「美和栄さんが、九里は三重に上げた。しっかり使ってやって。と仰ったのよ。だからこれからは三重で頑張って」とお聞きしました。知らないところでトレードが成立していました）

最初は「正しく立つ」稽古でした。増田先生からは技の進み具合に応じて宿題をいただきました。答えは自分で探す。決して教えてもらえませんが、一つが解決すると次の宿題がでます。そのような稽古が続けてきました。手を抜いた稽古の時、チラッと一瞥されただけで去られた時は縮み上がりました。稽古でも気合を抜かないとの無言の教えです。最後の宿題は難題でした。色々と試行錯誤の結果、2、3年後にやつと弦音、矢に現れてきてこれが結論かなと感じましたが、残念ながらこの時には先生はもうお見えではありませんでした。

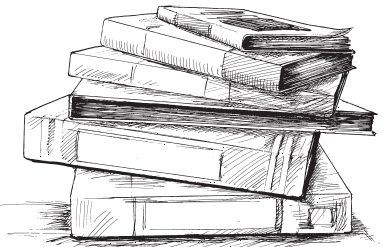
騎射は40歳を過ぎてから始めました。（沢辺さんから何度も止められました）中塾さんから清忠先生が來られて多度で稽古が始まるよと教えていただき、基本体を稽古したくて夜の稽古に参加し

ました。厳しくも楽しい稽古でした。少し動けるように戻ってきたのもこの時の稽古です。馬には何故かいつの間にか乗っていました。騎射の稽古で体構えの重要さを痛感しました。体構えを崩さない稽古は歩射にも大変役立っています。また、本番前夜の桑原さんを初めとした重鎮諸先輩の雑談の輪に勝手に潜入して伺ったお話は大変有意義なものでした。坂本先輩が流鏑馬の解説を降りられた折に解説をする機会をいただきました。ちょうど五十肩になり弓が引けない時期と重なり、以降は馬を降りて解説が中心になりました。解説が拙かったの

で、まだまだ書きたいことは沢山ありますが、この辺りで筆を置きます。約半世紀の稽古を振り返ってみますと清信先生、清忠先生、若先生にご指導いただけたことは別格にして、何と多くに先生、先輩に教えられ、引き立てられてきたのか、感謝に感謝を重ねても余りあるものがあります。年を経てこれからは少しでも恩返しできればと稽古しているところです。



平成22年9月 三重県 椿大神社 自樞館弓道場にて柿落しの藝目の儀



令和元年5月 小倉城にて流鏑馬の解説

令和元年5月 福岡県 小倉城にて流鏑馬

平成26年6月 フィンランド、ヘルシンキにて大的式

私と小笠原流

吉備義和

Genuine Japanの講座、 小笠原流礼法の学び

衆議院議員 古川直季様（元横浜市議員）より小笠原流三十一世宗家ご嫡男 小笠原清基様をご紹介いただき、それ以降、清基様にはプライベートでも親しくお付き合いいただいています。

京王線芦花公園駅の近くにある小笠原教場に初めて伺ったのは、清基様が主宰されている Genuine Japan（一般社団法人 日本文化継承者協会）の毎月1回の講座の中でした。私が初めて受講したのは、和紙で作るご祝儀袋の講座だったと思います。その時の講師は小笠原宗家三十一世令夫人（清基様の母上様）でした。生来不器用な私は和紙を綺麗に折ることができず、これではご祝儀には失礼で使えないというご祝儀袋ができてしまいました。

その他にも京都西陣の老舗呉服店である富田屋第十三代当主の田中峰子様による着物のご講座、

近衛家三十二代当主ご嫡男 近衛忠大様による公家に関するご講義、そして小笠原流三十一世宗家、小笠原清忠様による雛人形に関するご講義、小笠原教場において木馬に乗って矢を放つ弓馬術の真似事のようなことも体験させていただきました。

また小笠原流と言えば武家の礼法。生活の所作のすべてが礼法に基づいており、正しいお辞儀の仕方に始まり、立ち方、座り方など基本中の基本を学びました。小笠原流の礼法は体幹が強くないと正しく行えない、と言うか正しく行ううちに自然と体幹が鍛えられていくということを実感致しました。日々の生活の中で小笠原流礼法を正しく行っていると、足腰と体幹が鍛えられ、高齢者によく見られる歩行中の躓きが防止されるのではないかと思います。これこそ正に未病予防。転ばぬ先の杖ならぬ、転ばぬ先の礼法です。

残念ながらスケジュールが合わず受講できなかった講座も多く、香道、華道、茶道、剣術、薙刀術、

能など無理をしても受講しておくべき講座ばかりでした。講師の先生方はいずれもその道を代表される方ばかりで、最高の講師陣と言えるでしょう。現在はコロナ禍の影響もあり講座は実施されていないようですが、また開講された際には受講したいものです。

鎧兜着初め式

その後、私が還暦を迎える数ヶ月前に、清基様から鎧兜着初め式をやりませんか、という畏れ多いお誘いを受けました。鎧兜着初め式とは、元々は元服の儀式であり、それが明治以降に還暦を祝う儀式にも行われるようになったそうです。写真にありますがように、鎧兜を着させていただき、戦に出陣する武將を演じることにより還暦を祝う儀式です。靖国神社の能舞台で執り行われ、英霊に見守られる中、還暦を迎えることができましたことは一生の思い出です。能舞台周辺には外国人観光客ともしき人々など観客に囲まれての儀式となりました。その節は着付けをいただいた小笠原流門人の皆さまや靖国神社の神官の皆さまにはたいへんお世話になりました。



平成29年11月 東京都 靖国神社にて 鎧兜着初め式

寄稿者プロフィール

吉備 義和

株式会社ジョビア 代表取締役会長
公益社団法人 全日本マネキン
紹介事業協会理事



鶴岡八幡宮 鎭流馬神事での日記役

またコロナ禍により全ての行事の執行が見合わせられるようになる半年ほど前の令和元年10月に、鎌倉の鶴岡八幡宮において執り行われる鎭流馬神事の日記役という大役を仰せつかりました。日記役とは鎭流馬神事の開始に当たり、神への奉納を行った後、馬に跨り鎭流馬が行われる馬場に行き、「鎭流馬神事始めませ〜！」と開始の掛け声を掛ける役目です。また鎭流馬の射手が何本命中したかの記録を付けるのも日記役の役目です。この日の総奉行は在日イタリア大使が務められました。私のような市井の徒が大使と並んで大役をお受けしたのは果たしてどうだったのか、と後から恥じ入り次第でした。



このように清基様とのご縁から、小笠原流三十一世宗家ご夫妻を始め、門人の皆さまにもお世話になり、通常では経験できないような儀式を体験させていただき、感謝に堪えません。小笠原流を始めとする日本の伝統文化がますます隆盛し、子々孫々に継承されていくことを心より祈念申し上げます。



令和元年10月 神奈川県 鶴岡八幡宮にて流鎭馬神事での日記役

掲示板への登録方法

掲示板に記載された記事を読覧するだけでなく、掲示板に記事を記載したり、新しい記事が記載された場合にメールでお知らせが欲しい場合には、以下の手順に従いメールアドレスとパスワードを登録してください。

※以前にメールアドレスとパスワードをご登録している方は不要です。

Step.3 新規登録をする

メールアドレスと任意のパスワードを入力する。チェックボックスにチェックを入れて【**新規登録**】をクリック。

メールアドレスとパスワードは、忘れないようにメモ等しておいてください。

新規登録

アカウントをお持ちの方はログイン

メールアドレス

パスワード

☐ 私はロボットではありません
reCAPTCHA
プライバシー・利用規約

新規登録

☒ 公開プロフィールでこのサイトに新規登録します。詳細はこちら
登録を行うことで次に同意することになります: 利用規約

掲示板には過去の投稿履歴が残っているため、入会前の情報も見られます。
ぜひ、この掲示板を活用して、会員同士の交流を深め、情報を共有してください。

Step.1 ログイン

掲示板のページで【**ログイン**】をクリック。

ここをクリック



Step.2 新規登録画面

【**新規登録**】をクリック。

ここをクリック



小笠原流 NPO交流サイトの利用方法

小笠原流NPO交流サイトでは、会員同士が小笠原流の活動に関する情報や、メディア出演・掲載のニュースなどを共有して交流できます。会員限定で、様々な話題について意見交換することが可能です。NPO交流サイトを利用したことがない方でも、以下の手順に従うことですぐに使い始められますので、ぜひご活用ください。

掲示板の閲覧方法

Step.3 ログイン

NPO 会報誌「姿」に記載しているログインパスワードを入力して、【**ログイン**】をクリックする。

※パスワードは1年に1度変更され、毎年「姿」でお知らせします。

※今年度は「ogasanpo」です。

ゲストエリア

パスワードを入力してください。

パスワード

ログイン

今年度のパスワード【**ogasanpo**】を入力

ログインパスワードをご確認ください！



Step.1 サイトを開く

パソコンまたは、携帯端末のブラウザで、
小笠原流 NPO交流サイト
(np0.iccho-ogasawara-ryu.com)を開く。



Step.2 掲示板入り口

【**掲示板入り口**】をクリックする。



ここをクリック



理事長のつぶやき

インド流鎧馬

が不可という方もおり、普段は選ばれないような方にも参加いただきました。結果としては、多くの成長の機会になり、また、バランスの取れた人選であったと思います。

11月は国内で流鎧馬がありますので、荷物発送の日程確保や梱包などの段取りが非常に大変でした。また、インドへビザが必要になりますが、ビザ取得も様々なトラブルが発生しましたが関係の方々のご尽力により何とか間に合いました。担当者は気がでなかったと思います。荷物の発送ではカルネ申請が必要となります。同じ荷物を出して戻すので税金免除申請です。インドは非常に厳しいということで、カルネの申請にも多くの労力をさくことになりましたが、何とか我々が到着する2日前に現地に届けることができました。

いよいよ日本を出発する日となり羽田空港に集合し、全員がそろってインドに向けて出発することができました。インドに到着するなりホテルへ移動となったのですが、移動の車内から打ち合わせが始まりました。私は時差ボケにならないので何ら問題ありませんでしたが、中には厳しい方もおられたのかもしれない。翌日から稽古が始まりました。稽古の時には馬場（馬が走る場所）が出来ているということでしたが、結局1日半は馬場の無い状態での稽古となりました。

15頭用意いただき、短時間の間に8頭まで選びました。馬への観察力、対応力など様々な能力が必要となります。インドの馬を貸して下さる方々も日

2018年3月に Welcome to Tokyo (WTT) 主催の会が小笠原教場で行われました。WTTとは、『外務省OB及び現役配偶者の有志で構成されているボランティアグループで、1991年から外交官夫人を対象に日本文化をより深く理解していただき、交流を深めることを趣旨として設立された会』になります。この時に事務局をされていたのが後の在インド日本大使夫人である鈴木千景さんでした。2021年9月に、鈴木さんより2022年の日本インド国交回復70周年にインドで流鎧馬を執行することが可能かどうかというご連絡をいただきました。この頃は、コロナ禍でありインド株という言葉すら出ていた時期でしたがお話を伺う中では非とも執行しましょう、執行させていただきたいということになっていきました。オンラインツールを用いてインドと日本での打ち合わせを重ねていく中で現実に執行するための方法を見出していきました。出入国制限がどのようになるかも不透明でしたので、隔離期間があった場合を想定して、インドでの滞在期間を最小にする、様々な感染症がインドは注意が必要ですので、安全に滞在できるための動線を検討するといった、普段はあまり配慮しないことにも気を配る必要がありました。

2022年8月に執行が確定し、2022年の一連の祝賀行事のクロージングとして流鎧馬を執行することとなりました。日程は2022年12月18日でしたので、年末ということもあり、参加できる方が絞られたこと、さらにはコロナ禍のために参加

本人の馬への対応力を見ており、ここで対応を間違えるとバカにされた対応をされ続けることになるので、集中して見極めていく必要があります。なかなか、このあたりの力をつけるのが難しいので、2、3人で難しそうな馬の対応をすることになり、全体的な指示も常に発信していく必要がありました。結果として、インドの方々も誰の言うことは聞き、誰の言うことは聞かなくてよいのか、誰には強気で物を言うてよいけれども、誰には言うてはいけないのかという判断をされることになりました。ここで重要なのは、聞いてくれる方、言うてはいけない方がいたということです。

その後、馬場が無いために普段はしないような稽古をしながら馬との調整をはかっていきました。本番の前日となり、大きな問題が生じました。ここまでも小さな問題は生じ続けていましたが、何とかなるようなことでした。この大きな問題とは的が合板であったということです。合板ですと割れなく穴があくだけなので、合板はダメですということと当初から打ち合わせで言っていたのですが、インドには合板以外が無い、合板以外だと高いということと現地の工事の方が独断で合板で作製をしてしまいました。ホテルの部屋で合板的に向かつて矢を射放ち、割れないことを伝えて何とかしようということになりました。まずは、合板の裏に切り込みを入れたら割れるのではないかと割れませんでした。合板を短冊状にして張り合わせたら割れるのではないかと割れませんでした。あああ……。インドの



材木屋さんを探し回っていただき、倉庫の奥に一枚板を発見したとの連絡があり何とか当日の午前中に納品されました。

諸役（的を替えたり、矢を拾う方など）をインドにおられる日本人の方々にお願いをしたのですが、12月のインドというのは大気汚染がひどい時期のようで子どもたちの参加が難しいかもしれないという話ができました。実際、流鏑馬が終わり帰国する日にはひどい大気汚染を経験したのですが、30m先は見えないというくらいのものでした。流鏑馬の日は大気汚染も少なく全員が参加をされて大変よい天気の中で執行することができました。インドの伝統的な馬術であるテントペギングも披露され、交流を表現するような企画が行われました。流鏑馬の前に国歌が流れるというのは、非常に特別な思いがあります。両国の国旗をかかげながらのパレードなどもあり、今回の記念行事ならではのことが多くありました。

流鏑馬後は、大使館の方々などと打ち上げがあり、無事の執行を喜びあいました。翌日の片付けはスムーズに進み、帰国となりました。食べ物に気を

付けていましたが、本番の日に1名、帰国の日には8名ほどが腹痛に襲われてしまいました。観光は無く、お土産は空港と途中で1軒だけよるというような流鏑馬だけの旅でしたが、充実した時間を過ごすことができました。

元を振り返りますと、教場での体験会が無ければ今回のお話が無かったわけです。当法人の方々のお力添えがあり、教場での体験会を行う環境を整えることができています。インドでの流鏑馬執行の影には当法人の関係の方々がおられたということを皆が認識をしなくてはならないことだと思っております。今後も様々な出会いがあるかと思いますが、一つ一つを大切にしていきたいと思っています。

ちなみに、私は食べたものを食べたいだけ食べましたが腹痛になることも無く、元気に帰国しました。



ウェブサイト

海外の方々に認知をしていただくためにウェブサイトを更新しました。



その他

- 当法人で購入または譲り受けた以下の三頭の馬は、流鏑馬で活躍しています。
馬：左から菱端(りょうすい)、マウントフォンテン、ブランニューディ

- 小笠原教場の安土を再建しました。
- 矢道の整備を行いました。
- 諸道具の作製を行いました。
- 道具の修繕に関わる環境整備をしました。



2022年度の活動報告

・・・ 講座について ・・・

子ども流鏑馬教室

教場にて、子ども流鏑馬教室を行いました。6回講座で稽古着の着方や木馬での稽古、弓の引き方などを行いました。この事業は文化庁の助成事業として行いました。



弓道教室

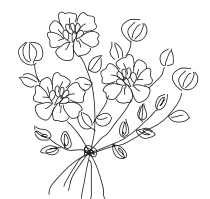
埼玉県北本市にあります小山弓具併設の弓道場にて、弓道教室を行いました。毎年、弓道教室を出られた方から門人になられる方もおられ、小笠原流の弓術の普及に貢献している教室です。また、同施設では外国人の方を対象とした弓道教室も開催しています。

礼法教室

千代田区にあります区の施設をお借りし、水曜日の夜に礼法教室を行っております。講師には小笠原流の礼法を稽古されている門人の方々にお願いしております。週末や平日の昼間の稽古では時間が合わない方々に小笠原流の稽古をしていただける場として大変有用な機会を提供出来ていると考えております。

女性向け礼法講座

京都駅付近にありますキャンパスプラザにて女性向け礼法講座を開講いたしました。会場のキャンパスプラザの使用料が変更になったために場所を変えて継続開催しております。



会員制度と特典のご案内

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、特別賛助会員を設置いたしました。
会員になっていただける方は下記事務局までお問い合わせください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
入会金	5千円	5千円	5千円
会費ならびに寄付金	一口以上 (一口1万円)	三口以上 (一口1万円)	一口以上 (一口10万円)

※特別賛助会員は総会での議決権が付与されませんことをご承知おきください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
門人向け会報「糾方」(年二回発刊)	1部	3部	20部
会報「姿」(年一回発刊)	1部	3部	20部
行事拝観	2名まで	5名まで	20名まで
掲示板の閲覧	○	○	○
掲示板への社名記載	—	—	○
教場での社名記載	—	—	○
税優遇	—	—	—

ご寄付のお願い

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、小笠原流の伝統文化の保存と育成を目的としてご寄付をお願いしております。
寄付いただける方は下記事務局までお問い合わせください。

寄付金額:1回3千円以上

寄付いただいた方には、年二回発行される会報誌「糾方」とご希望の方にはメールマガジンを送らせていただきます。

税控除について

2017年に認定NPO法人となりましたので、寄付頂いた後に確定申告されると、寄付金控除を受けることができ、最大約半額が戻ってきます。

※詳しくは最寄の税務署にお問い合わせください。

NPO 法人 小笠原流・小笠原教場

<https://www.ogasawara-ryu.gr.jp> e-mail npo@ogasawara-ryu.gr.jp

令和5年5月1日 特定非営利活動法人 小笠原流・小笠原教場 発行

編集・発行人 小笠原清基

〒251-0037 神奈川県藤沢市鵠沼海岸 2-17-4 TEL 0466-34-4089 FAX 0466-34-4102

©Ogasawara-ryū Ogasawara-school 2023 Printed in Japan